



相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
事務局：相模原市文化振興課 TEL 042-769-8202

フォトシティさがみはら

これは、市民が写真文化により親めるよう実行委員会が編集・発行するものです。

TOPICS



The 40th
Higashikawa Award Winners'
Photo Exhibition

第40回写真の町東川賞受賞作家作品展

2024.8.3Sat - 9.2Mon

10:00 - 17:00

写真の町 東川町文化ギャラリー (本館) 相模原市東川町1丁目14-1

◎主催：相模原市文化振興課 (共催：東川町文化振興センター)
◎協賛：相模原市文化振興課 (共催：東川町文化振興センター)
◎協賛：相模原市文化振興課 (共催：東川町文化振興センター)

Paul Winans 写真の町東川賞受賞作家作品展
国際写真フェスティバルとして
写真甲子園と東川賞受賞作品展開催



東川賞受賞展示会の期間、公共施設や道路などいたるところで写真展示
写真は東川町にて
2024.8.2
撮影

相模原市は、写真文化をテーマに取り組んでいる東川町、(一社) フォトネシア沖縄、(一社) フォトアーキペラゴセとうち、長野県阿智村、奈良市写真美術館など9団体による**写真文化推進協議会**に参加しています。なかでも東川町は、40年目を迎える写真賞授与だけでなく、31回目を迎える写真甲子園を主催し、町政の重要なイベントとして位置付け、写真文化のけん引役を果たしています。写真甲子園は、町民を巻き込んで町の魅力を印象付けて移住者を呼び寄せ、31回目を迎えた今年には全国で参加校 604校を数え、その熱戦ぶりは2017年に『写真甲子園 0.5 秒の夏』という作品に映画化されました。人口約8千人の町にサポーターボランティア含め100人以上の写真好き若者が集まる写真フェスティバル開催は、写真が内包する表現の深さと魅力が具現化されたものと言えるかもしれません。

わたしたちのまちのフォトシティさがみはら写真賞とは、また違った写真文化へのアプローチ、自治体丸ごとで写真に向きあい、写真文化から自分たちの町の誇りを醸成するあり方には、学ぶところが多々ありそうです。協議会では、住民の理解を得て継続していくヒントについても意見交換しました。いかに楽しく面白く写真にアプローチできるか、東川町にヒントをもらいましょう。

写真でシビツクプライドに先駆ける・東川町

31回目の写真甲子園は若者の熱気がまぶしい

写真文化でまちづくり 写真の町東川賞40年!

ひがしかわちょう
【東川町】北海道のほぼ中央に位置し、人口約8千人。旭岳の恵みを得て北海道で唯一の上水道が無い町。1985年に「写真の町」を宣言。2014年には「写真文化首都」宣言を行い、写真文化を通じたまちづくりを推進。現在、北海道で増加を続けている町です。



写真甲子園2024

写真甲子園に参加していた高校生にファイナル公開審査会の前、昼食タイムにインタビューしました。みんなの感想は以下。

- ・滞在は町民宅にホームステイ、食事はボランティアの手づくりで感激。
 - ・ホームステイするのも、撮影許可を見知らぬ人に得るのも初体験。コミュニケーションに自信がついた。
 - ・断られることも多いのに、この町の人は撮影許可をくれる。それが嬉しかった。
 - ・写真をセレクトしたり、本格的な審査会を繰り返して、自分の中で写真の意味が変わった。作品がわが子のように感じる。
 - ・北海道の自然と触れ合う機会を得られた。
 - ・写真のテーマや撮影箇所について当日くじ引きで決められて、リーダーがロケハン。課題をこなしていくうちに、これから大変なことがあってもこなしていけそう。
- さすがに疲れているようでしたが、達成感にあふれた若者らしい彼らでした。

都立武蔵村山高等学校
受賞作品
キャンパススピリット賞



※ 写真甲子園の本格的で意義深い審査会や開会式、表彰式は youtube で見られます。「写真甲子園 2024」で検索してみてください。

